

特定非営利活動法人 碧いびわ湖

年間活動レポート

2023年版



子どもと湖が笑ってる未来へ

碧いびわ湖

また一步 子どもと湖が笑ってる未来へ

「子どもと湖が笑ってる未来へ」を掲げ
碧いびわ湖が旧環境生協の事業を継承してから14年。
人間本来のあり方に沿った暮らしとなりわい
育ちと学びのあり方を、みんなの力で編み出してきました。

今年度からは、休眠預金活用事業にも参画し
子どもたちの育ちと学びの環境を整えながら
身近なコミュニティを育み、ネットワークをつくり
活動を持続させる仕組みづくりに取り組んでいきます。(詳細は9ページ)

せっけん運動を生み出した生協運動や労働運動のように
一人ひとりの内なる想いを原動力に
仲間との協同を通じて暮らしと社会を育む。

そんな人間らしい日々を
みなさまのご参加とご協力のもと
育んでいきたいと思えます。

また一年、よろしくお願ひいたします。

2023年5月

代表理事 村上 悟



一人ひとりの参加と協力で

碧いびわ湖は、多様な人々の参加と協力で活動をしている市民事業体です。自然環境と子どもたちの未来を、守り育てることのできる暮らしと社会を、みんなの協力でつくっています。

地域づくり	共同購入・リサイクル	住まいづくり
<p>ホタルが自生する川づくり（守山市）、マザーレイクゴールズの推進（滋賀県）、休眠預金活用事業など、一人ひとりの足元から、人々の参加と協力で暮らしの基盤を整えていく「地域づくり事業」を行っています。</p> 	<p>びわ湖とその流域で栽培された有機農産物、間伐材入り紙製品、リサイクルのせっけんや紙製品をみんなで購入する「共同購入事業」、リサイクル原料の廃食用油や牛乳パックを人々の参加で集める「リサイクル事業」を行っています。</p> 	<p>雨水、太陽熱、森の木々などの身近な自然を生かす住まいを、人々が共に学び、力を合わせてつくる「住まいづくり事業」を行っています。人々の協力でつくる協同住宅づくりの実現に向けた取り組みもしています。</p> 
市民自治・政策提言		
<p>会員交流会の開催や、市民メディア「あまいろだより」の発行など、一人ひとりが想いと情報と力を持ち寄り、行動する「市民自治」を行っています。琵琶湖流域の環境保全や、子どもの育ちや学びなどについて、市民が学び合い、議論し、行政や企業などにもはたらきかける「調査研究」「政策提言」もしています。</p>		

はじめりは、琵琶湖のせっけん運動でした

1977年5月、琵琶湖の湖面が赤錆色に染まり、異臭が漂いました。プランクトンが異常繁殖する「赤潮」という現象で、洗濯に使われていた有リン合成洗剤がその原因でした。生協、婦人会、労働組合などが協力してせっけんの使用が進められ、1980年には県内で有リン合成洗剤の販売を禁じる富栄養化防止条例（びわ湖条例）が制定されました。



そのせっけん運動の一翼を担った「湖南消費生活協同組合」の中から、1989年に「滋賀県環境生活協同組合」が設立され、環境に重点を置いた市民事業と地域づくりを行いました。2009年、この生協の事業を継承して生まれたのが碧いびわ湖です。子育て世代を中心に、40年以上にわたる運動と事業を継続しています。

身近な自然のなかでワクワク

“幼児期から自然のなかで、友だちといっしょに夢中になって遊ぶ”
この経験がたくましく生きぬくために圧倒的にたいせつです!!
身近な自然環境において遊び・学びの環境づくりをすすめています。



守小の前の川で親子でほたるを飛ばす！環境学習クラブ「ルシオールキッズクラブ」



親子の遊び場「おいしい庭」



野洲川をカヌーで琵琶湖へGO!!

●親子でほたるを飛ばす！環境学習クラブ

(株) みらいもりやま 21 (守山のまちづくり会社) とともに運営している環境学習クラブ「ルシオール・キッズ・クラブ」では、ほたるが自生できる川づくりを継続しています。2021年10月に子どもたちが守山市長に提言した「ほたるが自生するためのヤナギの植樹」が実現しました(2023年3月)。

●野洲川で遊ぶの大好き！クラブチーム

野洲川をフィールドにした環境学習クラブ「なかす野洲川たんけん隊」の活動では、1年間に延べ230名(大人110+子ども120)が参加してくれました。また、2023年3月には河合嗣生さんにご指導いただきカナディアンカヌーの体験会を行いました。

また、前年度につづき、中洲こども園の川遊びをサポートしました。

●親子の遊び場「おいしい庭」を開催!!

前年度につづき、守山市環境学習事業として子連れ親子を対象とした親子の遊び場「おいしい庭」を20回実施し、448名(前年比+143名)が参加してくださいました。(家族数69組で、初参加が49組)

運営にあたってはJAレーク滋賀営農戦略部にご協力いただき野菜づくりを行うとともに、ヤヒロユカさんにご協力をいただき、生ごみコンポストづくりの学習を3回実施することができました。

<おもな活動>

- 親子でほたるを飛ばす！「ルシオールキッズクラブ」(川に学ぶプロジェクト)
- 野洲川が大好きなクラブチーム「なかす野洲川たんけん隊」
- 中洲こども園、小津こども園、野洲小学校での学習活動(川遊び含む)
- 守山市環境学習事業「畑がつなくコミュニティ・ネットワーキング」 ほか



ルシオールキッズクラブの子どもたちを中心に、守山小学校のたくさんの児童に見守られながらヤナギの植樹をしました。



中洲の夏休み、野洲川で川遊び。



みんなでDIYした木製コンポストで、生ごみみたい肥化も実践し学んでいます

びわ湖と流域のつながりを守り育む

びわ湖と流域、暮らしと自然のつながりを大切に
人々の連帯の醸成に取り組みました。

滋賀県の MLGs 推進事業に参画し、多様な取り組みを行いました。



西の湖周辺を歩いて自然や文化に触れる（水辺のエコロジーフットパス計画 in 西の湖）



芸術家のみなさんと琵琶湖のエリ漁を体験



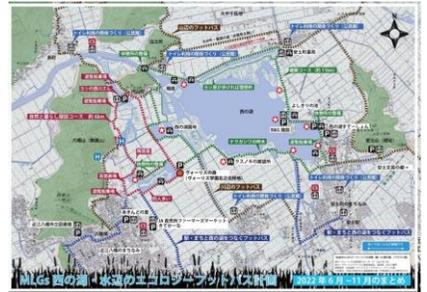
学校林の竹や木を「資源」として活用する体験学習

●西の湖でエコロジーフットパス計画作り

フットパスとは、人々の”歩く権利”を具現化したイギリスからのムーブメント。河合嗣生さん（ランドスケープデザイン・アトリエ風）のナビゲートで、2回の西の湖散策とワークショップを行い、フットパス計画（案）を作成しました。2023年度は近江八幡市の事業として継続実施されます。



レポート記事



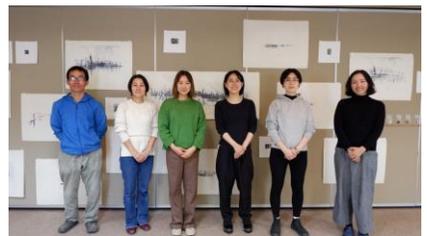
作成した「MLGs 水辺のエコロジーフットパス計画（案）in 西の湖」（ドラフト版）

●漁業と芸術家の出会いが予想外の展開に

昨年度に実施した若手漁師の駒井健也さん（志賀町漁協・フィッシャーアーキテクト）のエリ漁体験を、芸術家の方々の作品制作ワークショップとして実施しました。松元悠さん（版画家・美術家）のナビゲートで6人の作家が作品を制作。オンライン発表会で終了の予定でしたが、「ぜひ実物の作品展示会を開催したい」との声がゲストからも作家からも上がり、和邇図書館で展示会とワークショップを開催！多くの方に琵琶湖や漁業に触れていただくことができました。今年も継続実施を目指されています。



レポート記事



和邇図書館で開催された「漁師と芸術家」展



安土～西の湖での「ボタリング」（ゆっくりとしたサイクリング）体験

●水源の森のオンライン女子会

水源の森をテーマに、四人の女性のオンライントークサロンを開催し、暮らしと森とのつながりについてお話を伺いました。動画を視聴いただけます。



レポート記事



MLGs オンライン・トークサロン「知りたい！行ってみたい！びわ湖の水源の森 自然を守るって？」

<他にもこんな活動をおこないました>

- ピワイチが“持続可能な社会”を実現できるってホント？ 自転車で作るウェルビーイング@西の湖
- MLGs たても探訪～CO2 ネットゼロ社会の住まいと暮らしを思い描く@草津&野洲
- SDGs を自分ごと化する MLGs 体験学習～森林活用編～@日野 ほか

子どもも大人も 実践・交流・学習

子どもも大人も、いろんなチャレンジをしてみたり、いろんな人と出会ってみたりすることで、世界がひろがり、自分の可能性も開けます。失敗も学びの糧として、みんなで成長しあう営みを、子どもも大人も共に実践しています。



中高生たちとともに守山市内6か所にて取材（撮影）を行い、動画づくりを行いました



野菜農家&野菜ソムリエの渡辺維子さん取材



池田勝さんや宮崎僚子さん、常諾彩子さんなどにもご協力いただき、中高生とたくさん語り合うことができました。（写真は、たき火を囲んでの話し合いの様子）

●中高生とともに動画づくり

前年度につづき、守山市環境学習事業として、中高生とともに守山市内の環境活動の現場に行き、真剣に活動する多彩な大人たちに出会い、取材（撮影）&動画づくりを通して、学びを得ることができました。

びわこ地球市民の森や、ファーマーズマーケットおうみんちなどを取材しました。

●滋賀県子ども県議会

4年目となる滋賀県子ども県議会開催事業を受託して運営しました。ひとり一人が、ありのままの自分である安心できる場づくりを行いました。新たに若いサポーターにたくさん参加していただきました。

●せっけんでの食器の洗い方講座

HCCグループさんからのご依頼で、せっけんでの食器の洗い方の講習会を行いました。リサイクル液体せっけん”ゆう”の製造責任者の五百井裕子さんから、せっけんと合成洗剤の違い、使い方のポイントなどを体験でわかりやすくお話いただきました。

●あまいろだよりの発行

Vol.49 柿渋で染める浄化するものづくり、Vol.50 日野里山フリースクール、Vol.51 森と人をつなぐ、Vol.52 市議になる、と充実の4号が今年度も発行されました。置いていただいている場所も広がっています。

●会員交流会の開催

総会での会員交流会に加えて、オンラインを交えた会員交流会を4回開催しました。不登校、水源の森、竹の活用、中山間地での農業について学び合いました。



12月には滋賀県議会議場にて子ども県議会（本番）が開催されました。



液体せっけんと合成洗剤での洗い比べを体験



あまいろだよりのある風景 (Instagramより)



オンライン会員交流会「いま、竹がアツい！」では、長野の深澤さんをゲストに、竹に関する実践者が集いました。

あるがままの自分を受容しあえるコミュニティを育む

—休眠預金活用事業のはじまりにあたって—



写真提供：特定非営利活動法人フリースクールてだのふあ

1970年代のせっけん運動から続く環境自治・地域自治の営みを、どんな形で次の世代に引き継いでいくか。子どもたちの育ちと学び、琵琶湖とその流域の自然環境を、いかに守り育てていくか。今年度から本格始動する「休眠預金活用事業」の紹介も兼ねて、僕の考えをお伝えしたいと思います。

(碧いびわ湖 代表理事・村上悟)

不登校の増加が語るもの

近年、子ども・若者の不登校が増加の一途をたどっています。特にここ数年の増加は著しく、居場所づくりやフリースクールの設立も相次いでいます。2021年には、私の暮らす日野町でも友人たちがフリースクールを立ち上げられました。

いま、何が起きているのか。当事者や支援者の方々、有識者の方々からお話を伺い、見えてきたことは、子どもや若者たちが「あるがままの自分を理解され、尊重される」という体験がとてもしなくなっている、ということでした。

そして気づきました。それは決して子どもたち

に限ったことではなく、私たち大人自身がそうではないかと。日々、自分の想いや事情よりも、果たすべき役割を果たすこと、波風を立てないことに腐心していないでしょうか。そうした大人たちに囲まれていて、子どもたちが、自分自身をおおらかに発揮することは難しいと思われまます。

振り返れば、子どもも大人も、多様なつながりが乏しくなりました。かつては異年齢での遊び、地域での農作業、個人商店での買い物、近所づきあい、地域行事など、タテ・ヨコ・ナナメの多様なつながりがありました。祖父や祖母が近くに暮らしていることも多く、親とは違う距離感で子どもたちを見守る存在もありました。

そうした関係の中で、親や教師とうまく合わない子でも、家庭や学校のほかに、理解者や居場所を見つけ出せたのではないかと思います。

人間は群れて暮らす生き物

人間とサルとの決定的な違いは、子育てを協同行うことだと言われています。人間は、直立歩行で手と脳が発達した代わりに産道が狭くなったため、他の動物より未熟な状態で生まざるを得なくなった。そんな弱い赤子を協同して育てるところに、人間という動物の特性があるそうです（母ザルは子どもを他のサルに預けない）。

子育てを終えた高齢者が生存し続けるのも、群れの維持や、子育ての支援をする役割が必要だからと言われます。

また、一人一人の特性に凸凹があるのも、さまざまな困難に対して、群れ全体として対応できるように理にかなったことだともいわれています。

碧いびわ湖のルーツである生協運動や労働運動といった「協同」は、群れる生き物である人間の本来の姿の発露であり、それは今、各地で取り組まれている子どもたちの居場所や学びの場づくりと、原点を同じくするものだと思います。

休眠預金を元肥として

2021年の夏、公益財団東近江三方よし基金の山口美知子さんから、休眠預金活用事業に共同で応募するお誘いをいただきました。

休眠預金とは、私たちが金融機関に預けたまま10年以上引き出されていない預金のこと。この

お金を公益事業に活用する仕組みが2018年に法整備され、運用されています。

様々な関係者からお話を伺い、計画を作って応募をしました。最初の申請では不採択でしたが、二度目で採択され「あらゆる子どもの育ちを保障する地域総動」と銘打った事業を開始しています。

碧いびわ湖と東近江三方よし基金は「資金分配団体」として、今後3年間、公募で採択された6つの「実行団体」の活動に対し、助成を行うとともに、助言などの伴走支援を行います。

加えて、同様のテーマに取り組む県内の他団体との共同学習やネットワーク構築を進め、公共政策づくりにも取り組みます。また、4年後以降も、子どもたちの育ちと学びを支えられる地域づくりの活動を県域で継続・発展していけるための仕組みづくりにも取り組みます。

暮らしをつくる、つながり育む

目指すのは、不登校の子もそうでない子、そして大人も、「あるがままの自分を理解され、尊重される」体験ができるコミュニティを育むことです。そのためには、何らかの施設や制度をつくることだけではなく、タテ・ヨコ・ナナメの人々の関係性を育んでいくことが肝要だと思います。

身近な自然環境に身を置く。作物を育てる。身の周りにあるものを暮らしに生かしてみる。お金の向こうの人の営みや自然環境への負荷を理解して買い物をする。自分一人ではできないことは誰かを頼り、協力し合ってチャレンジする…。

それら普遍的な営みを一つ一つ重ねて、暮らしをつくり、つながりを育むこと。その先に、“子どもと湖が笑ってる未来”があると思います。了

お気軽にご参加ください

→ イベントに参加してみる

碧いびわ湖では、様々な体験や学び、出会いのあるイベントを企画実施しています。Facebook や Instagram など告知や実施報告を掲載しています。まずは「いいね!」「フォロー」してください。

- Facebook→「碧いびわ湖」検索して” いいね!”
- Instagram→「碧いびわ湖」検索して” フォロー”



→ 入会する、寄付をする、活動をする

碧いびわ湖には多彩な会員がいます。他の会員さんと交流したり協力したりすることで、より深い学びやつながりを得ることができます。会員は毎年5月に開催される会員総会にもご参加いただけます。

- ・運営会員 1000 円/口・年 (複数口可) 議決権あり
 - ・賛助会員 3000 円/口・年 (複数口可) 議決権なし
- 寄付も随時お受けしています。
- 入会・寄付・ボランティア→お問い合わせください



→ 事業の利用で参加してみる

共同購入や住まいづくりなどの事業のご利用で、身近な自然、生産者・職人さんたちとの生きたつながりを育むことができます。会員でない方でもご利用いただけます。リサイクル活動にもご参加いただけます。

- 共同購入→「碧いびわ湖 共同購入」[検索](#)
- 住まいづくり→「碧いびわ湖 住まいづくり」[検索](#)
- リサイクル→お問い合わせください



▲碧いびわ湖の共同購入サイト

特定非営利活動法人 碧いびわ湖

電話 0748-46-4551 FAX 0748-46-4550
〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦3
メール info@aoibiwako.org
HP <http://aoibiwako.shiga-saku.net/>

子どもと湖が笑ってる未来へ

碧いびわ湖